



22 栗子山隧道図

高橋由一
一面

明治十四年（一八八二）
キャンバス、油彩
九九・一×一四六・五

幕末から明治にかけて活動し、まさに洋画の黎明期を支えたと
言える高橋由一（一八二八〜九四）は、常々写実性と堅牢さを併
せ持つ油彩画の、記録技術としての有用性を説いていた。その由
一に、東北新道の大工事の様子を記録画に残すようにという山形
県令三島通庸からの依頼があり、由一にとって自らの主張を証明
する絶好の機会となった。

明治十四年（一八八二）七月からの三ヶ月間、由一は山形県にお
いて膨大な量の写生を行った。本図はその記録画の一つとして
描かれたものである。主題となっているのは、日本で最も早い時
期のトンネル工事となった栗子山のトンネルである。いかにも
重厚かつ堅固な岩盤の見事な描写には、モチーフの質感表現に最
も力を注いでいた由一の特徴がよく表れている。また、トンネル
内部の暗がりの中で、灯りに照らされてわずかに坑夫の姿が浮か
び上がる繊細な描写は、写真に劣らない油彩画の写実性を示すか
のようである。

さらに言うならば、由一は本図と同様の構図で、栗子山隧道を
油彩画や石版画にしているが、本図に比べるとトンネルに対する
人物の比率が大きい。由一は本図においてトンネルのスケール
を強調すべく、意図的に人物をやや小さく描く工夫をしたものと
推察できる。また、トンネルとその周辺部分だけが焦点を合わせ
たかのようにモチーフが克明に描かれ、逆にそれ以外の部分は何
が描かれているのか判然としない描写になっているのも、鑑賞者
の視線をメインモチーフに誘導しようとする由一の工夫だろう。
このように由一は写実性だけでなく油彩画だからこそできる表
現を追求していたのである。

明治十四年の東北・北海道巡幸において明治天皇が栗子山の
隧道開通式に出席された際、行在所に掲げられていた本図を御覧
になり、その場で御買上となったものである。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治美術の一断面——研ぎ澄まされた技と美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 82

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成三十年十一月三日発行

© 2018, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan